

2015年～2017年度「連携総合ゼミ」3年間の学生アンケート自由記述内容の分析

松井由美子、村田憲章、桑原桂、山口智、真柄彰
新潟医療福祉大学 新潟連携教育研究センター運営委員会

【背景・目的】4年次の連携科目「連携総合ゼミ」は前身となる「総合ゼミ」が2004年の試行に始まり2018年の開催で15回目となる歴史ある科目である。2009年の文部科学省の戦略的事業によりモジュール（仮想事例教材）が開発され、毎年更新される児童虐待報道事例など一部を除いてほとんどの事例がネット上で閲覧でき学習環境も格段に整備された。また、大学間連携により新潟薬科大学や日本歯科大学、日本歯科大学短期大学、新潟リハビリテーション大学に加えて近年急速に国際化が進み、フィリピン、台湾、ベトナムなどアジア諸国からの参加者も増加している。

これまでの事前事後による2つの評価に加え、2014年から新たな項目でのアンケートを試行的に追加し、自由記述欄も設定した。記入は任意であるが自由記述欄の書き込みは毎年多く2015年から2017年までの3年間の内容をテキスト・マイニング・ツールを使って分析した。

【方法】IBM SPSS Text Analytics for Surveys 4.0.1wを使用してコード化処理を行った。

【結果】全部で27のコードが抽出された。そのうち形容詞(37)、形容動詞(27)、組織名(15)と、含む内容が1つの「後悔、驚き、悲しい、怒り、安心、困っている、喜び全般、感動、疑問、不安、お願い、悩み」も除外した。表1に付された内容の多い順にコードと内容を示した。

【考察】4を除く1～6と10～12のコードはポジティブなコードで連携総合ゼミに対する満足感や充実感がうかがえた。特に、他大学からの参加者から自分の大学ではできない経験であること、学内の学生からは他大学や、他学科からの話や考え方を聞いたことが語られている。海外参加者からは感謝の言葉が多く、教員への感謝も述べられた。

7～9のコードでは言語の壁が語られ、発表会では同時通訳などで解消されているが、海外グループにいる日本人学生の困難さが表出した。発表会でも日本語発表のスライドの翻訳も課題である。4の要望では登録の確認やゼミ前の英語学習の要望もあった。また、病院でもこのような機会が欲しいなど今後に向けての課題が得られた。

【結論】連携総合ゼミに対して概ね良い評価を得られているが、言葉の壁は根強く今後も一層の工夫が求められる。

表 1. 12のコードと含まれた内容

コード	付された内容
1. 良い (26)	多職種連携の重要性を実感する貴重な経験、口腔ケアに対して観念の違いがあることが理解できた、モチベーションが上がった、多くの支援策を考えられてよかった、各事例に興味を持って聞くことができた、言葉の壁や制度の違いはあったが参加できてよかった、なかなかない機会でのよい経験になった、自分の偏った意見があることを理解できた、歯科衛生士や薬剤師について話を聞いてよかった他
2. 感謝 (14)	全メンバー、先生方に御礼申し上げます、素晴らしい機会を与えてくれて感謝しています他
3. 楽しい (14)	毎日とても楽しかった、一週間楽しく活動、自分の力を発揮した、専門領域以外を知れた他
4. 要望 (11)	登録の確認をしていただきたい、英語の学習がゼミ前に受けられるといい、英語のプレゼンを提供してほしい、違う時期に開催してほしい もっと多くの人に受けてもらいたい、病院でもこのような勉強会が欲しい、また機会があれば参加したい他
5. 褒め・賞賛 (10)	素晴らしいパートナーを知ることができた、アドバイスを良かった、メンバーが楽しく良かった、私たちのチームワークは素晴らしい他
7. 悪い (7)	英語のゼミで理解することが大変、ネット環境が良くなかった、日本語が理解できず大変他
8. 不満 (3)	医療生にも表彰状がほしい、もう少し留学生用の事例がほしい、日本語グループの英語のパワーポイントがない
9. 残念 (3)	もっと他の職種とも連携したかった、1週間以上したかった、発表時間が短いと感じた
10. 嬉し (3)	連携について学ぶことができる、協力できるように助けてくれて嬉しい、先輩の訪問が助かる
11. 期待 (2)	ディスカッションは新鮮で興味深かった、症例は興味深かった
12. 好き (2)	自分の職種が好きになった、グループ8人のメンバーが大好きです

●■で示した7～9の部分はネガティブな意見、4は要望